

愛知県美術品等共同収蔵庫 整備基本計画について

2026年7月10日
愛 知 県

1 現状と課題

- 愛知県において美術品等を収蔵している県立3施設は、いずれも築年数が30年を超え、作品の収蔵能力の限界を迎えつつあることから、美術館活動の根幹である作品の保存・収集等に支障が生じかねない状況となっている。
- 県民の貴重な財産を守ることができるよう、早急に収蔵スペースを確保する必要がある。
- そこで、全国初となる県立3施設共同で作品を保存するための施設を整備し、スケールメリットを活かして収蔵スペースを確保する。

施設名	愛知県美術館	愛知県陶磁美術館	愛知県立芸術大学
所在地	名古屋市	瀬戸市	長久手市
開館・開設	1992年	1978年	1966年
延床面積 (施設全体)	109,062㎡ (愛知芸術文化センター全体)	20,968㎡	51,159㎡
収蔵庫面積	1,823㎡	1,946㎡	536㎡
所蔵品数 (2025年4月1日現在)	約9,100件	約8,800件	約1,900件
所蔵品の 増加傾向	約120件／年	約170件／年	約10件／年
所蔵品群	日本画、絵画、版画、デッサン、書、彫刻、工芸、考古資料、映像、写真等	陶磁、陶磁文化に関連する工芸(漆器、金工、木工等)、考古資料、その他(絵画、書等)	日本画、油画、版画、デッサン、彫刻、陶磁、音楽資料等

〈参考〉・全国で6～7割の美術館・博物館において収蔵スペースに課題あり
・愛知県内の公立・私立美術館等においても7割の美術館等において同様の課題あり

2 整備計画地

【所在地】常滑市内(中部国際空港近く)



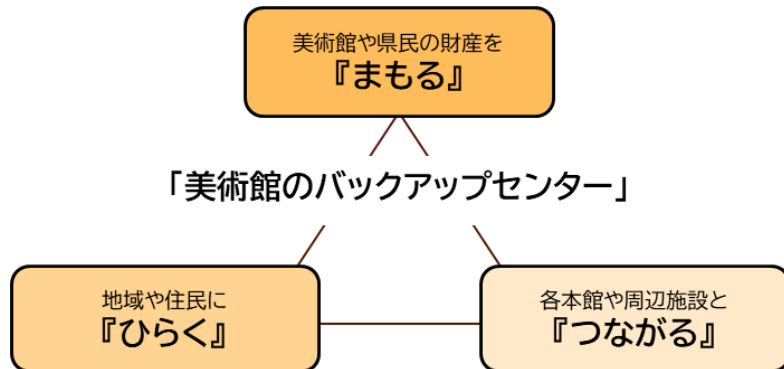
【敷地面積等】約59,000㎡、標高約20m



3 共同収蔵庫の目指す姿

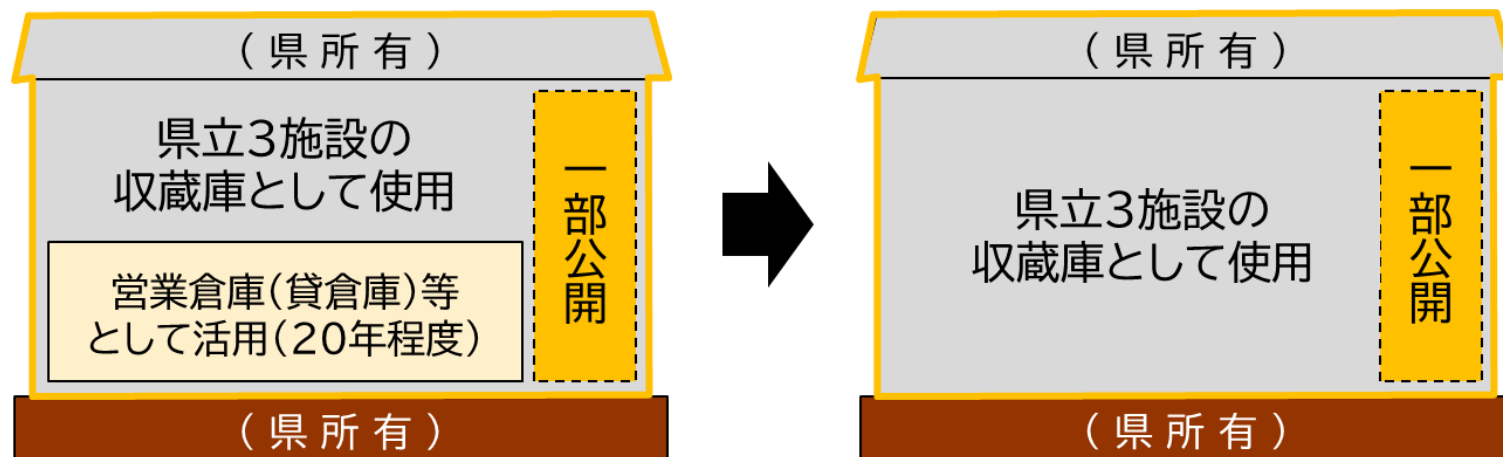
既存の収蔵機能を補完するだけでなく、作品の「保存」という美術館の基本的活動の一面を広く知っていただくための重要な役割を果たす施設として、「まもる」「ひらく」「つながる」のコンセプトのもと、愛知の文化芸術の魅力を一層高める「美術館のバックアップセンター」を目指す。

役割	コンセプト
① 県立3施設の適切な管理レベル・方針を尊重し、各本館から離れた場所でも効率的に作品を保存する。	美術館や県民の財産を 『まもる』
② 収蔵環境の一部公開による教育普及を図る。	地域や住民に 『ひらく』
③ 地域との調和性・周遊性を確保しながら相乗効果を図る。	各本館や周辺施設と 『つながる』



4 共同収蔵庫の機能

- 県立3施設共同の収蔵施設としてスケールメリットを活かして収蔵スペースを確保するとともに、優れた収蔵環境を構築する。
- 県立3施設では見ることのできない「美術館活動の裏側」を公開することにより、収蔵庫における保存の取組について学べる機会を提供する。
- 供用開始後20年程度、共同収蔵庫の一部で県立3施設以外の作品も保存できる諸室構成とする。



4 共同収蔵庫の機能

【共同収蔵庫で保存される作品の想定】

- 県立3施設の各本館と共同収蔵庫をそれぞれ効率的に活用するため、作品の保存にあたっての考え方の整理

県立3施設の各本館で 保存される作品の想定	➤ 国指定重要文化財のほか、県立3施設を象徴する作品 ➤ 新たに取得した作品
共同収蔵庫で 保存される作品の想定	➤ 大型の作品等、現在の収蔵庫では効率的な保存が難しい作品 ➤ 運搬時の損壊リスクが少ない作品 ➤ 県立3施設間や周辺施設との相互活用に資する作品

4 共同収蔵庫の機能

【諸室構成】

- 共同収蔵庫には保存及び教育普及機能を備えることとしているため、以下の諸室の導入を想定しています。なお、作品の種類や特徴は県立3施設で異なるため、収蔵室及び前室は施設ごとに区画（ゾーニング）することとします。

機能	主な諸室
保存	収蔵室、前室、荷捌場兼作業場、トラックヤード、修復室、撮影室、処置室
教育普及	収蔵室閲覧ルーム、修復室見学ルーム、レクチャールーム
管理	事務室、エントランスホール、風除室、EV、廊下、階段、WC、機械室、ガス消火ボンベ室

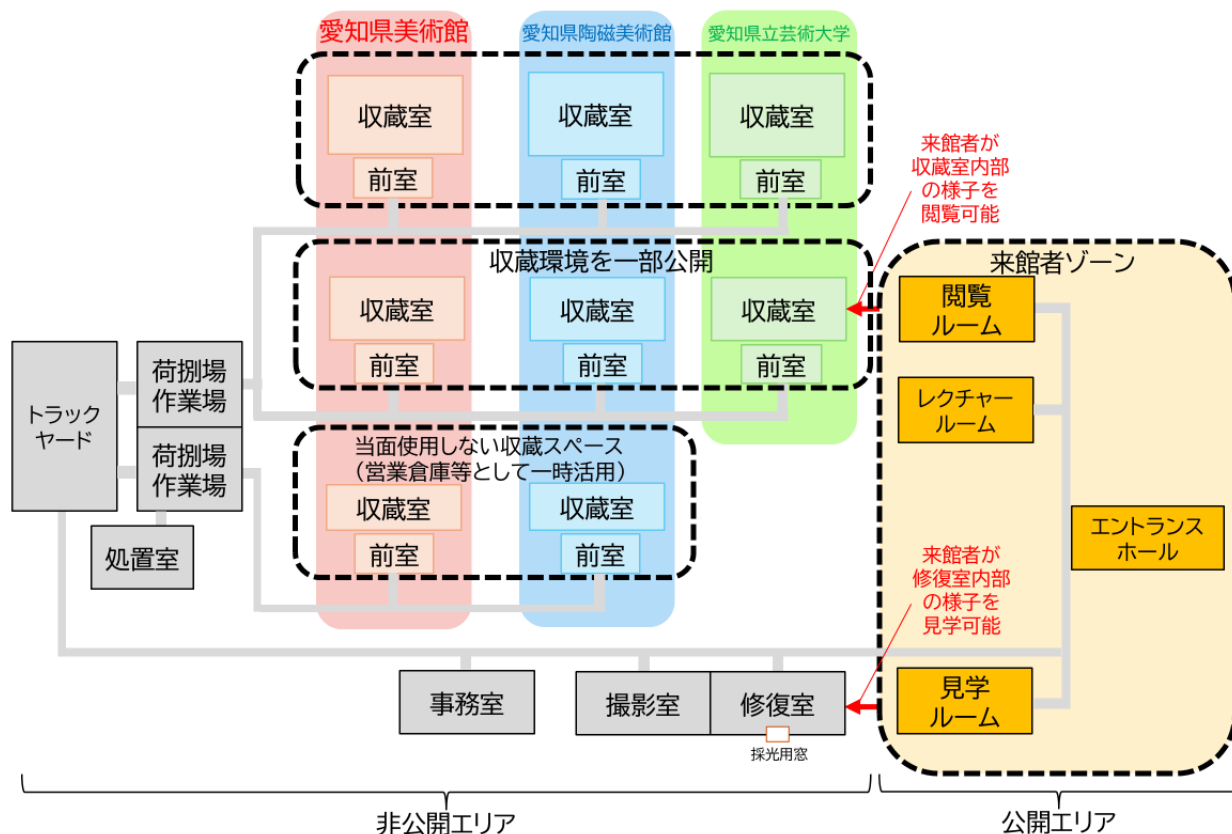
4 共同収蔵庫の機能

【動線の考え方】

○ 収蔵環境に影響を及ぼさないよう注意しながら、共同収蔵庫における保存・修復活動を一部公開することで、県立3施設の作品を安全に保存・継承する収蔵庫の機能を、県民をはじめとする来館者の方々にも知っていただけるような動線とします。

また、県が当面使用しない収蔵スペースの民間活用期間中は、トラックヤードを除き、県立3施設とその他収蔵スペース利用者が交わらない動線とします。

※図はあくまで動線の考え方を示したものであり、実際の平面計画とは異なります。



5 建物のイメージ

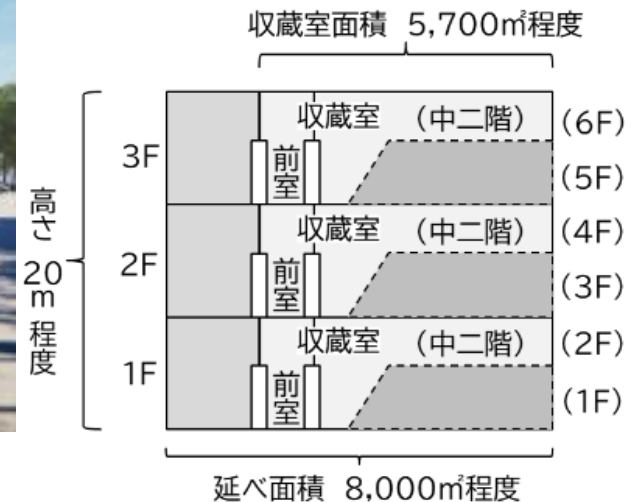
〈参考〉外観イメージ



※ 現時点の施設整備イメージを整理すると図のようになりますが、これは必要となる機能を配置したイメージであり、今後の検討を踏まえて対応を図るものであるため、整備内容を決定したものではありません。

〈施設規模の目安〉

延べ面積 8,000㎡程度
収蔵室面積 5,700㎡程度
高さ 3階建相当(20m程度)



6 事業手法及びスケジュール

- 事業の実施にあたっては、民間のノウハウや創意工夫による効率化を図るため、設計・建設・維持管理・運営を包括的に発注するPFI(BTO)方式により実施する。
なお、本事業では維持管理・運営期間を20年と想定している。
- PFI(BTO)方式の導入を通じて、「まもる」「ひらく」「つながる」の3つのコンセプトを実現するほか、共同収蔵庫のさらなる魅力向上を図るための事業提案が得られることを期待している。
- 現在、想定しているスケジュールは、以下のとおり。2030年度の完成を目指している。

